

J.S.バッハ(1685-1750)の《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》(全 6 曲)は、3 曲ずつのソナタとパルティータで構成されており、1720 年の日付がある清書譜が残されているため、おそらくそれ以前、バッハの器楽曲の名品が生まれたケーテン宮廷楽長時代前半の所産と考えられている。

### 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第1番

全 6 曲中 3 曲を占めるソナタの各楽章は舞曲名を持たず、いずれも4楽章構成で「緩／急／緩／急」の教会ソナタの形式をとっている。また、第 2 楽章にバッハの真骨頂ともいべきフーガが置かれている点も共通している。

ソナタ第 1 番は、第 3 楽章がシチリアーナ(シチリアの民俗舞曲)であるところが、他のソナタとは異なっている。第 1 楽章アダージョは、重音を多用しながら旋律が淀みなく流れ、全 6 曲の冒頭を飾るにふさわしい荘重な雰囲気湛えている。第 2 楽章フーガでは、まるで 2 挺のヴァイオリンによって奏されているような疑似対位法が展開される。牧歌的な第 3 楽章シチリアーナを経て、第 4 楽章プレストでは、16 分音符の単旋律が無窮動的に疾走する。

### 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第1番

パルティータ第 1 番は、基本となる 4 つの舞曲にそれぞれ「ダブル」という変奏曲が付く。なお本曲では、ジグが来るべき最終楽章にブーレ(ボレア)が置かれている。格調高い第 1 楽章はアルマンドとそのダブルに始まり、続く第 2 楽章はフランス語の「クーリール(走る)」に由来する舞曲クーラント(コレンテ)とそのダブル。第 3 楽章は 16 世紀スペイン発祥といわれる荘重なサラバンドとそのダブル。そして第 4 楽章には 17 世紀フランス・オーヴェルニュ地方発祥といわれる快速なブーレが来て、最後はそのダブルで曲を閉じる。

### 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第3番

ソナタ第 3 番のフーガの序奏となる第 1 楽章アダージョは、付点リズムによる神秘的な重音でゆっくりと始まる。第 2 楽章フーガの主題には、聖霊降臨祭の古いコラール《来たれ、聖霊よ、主なる神よ》の旋律が使われている。この 354 小節にも及ぶ長大なフーガは、バッハが遺したフーガのなかでも最長のもの。第 3 楽章ラルゴは短いが、優雅な旋律を歌う。第 4 楽章は、軽快に駆けまわるアレグロ・アッサイ。